「オープン・イノベーション」

AGAROOT ACADEMY

◆ オープン・イノベーションは、2003年にヘンリー・チェスブロウが発表したもので、以下のような定義である。

- オープンイノベーションとは、組織内部のイノベーションを促進するために、組織内部と外部の技術やアイデアなどの資源の流出入を活用し、組織内部で生み出されたイノベーションを組織外に展開する市場機会を増やすことである。

◆ オープン・イノベーションは外部の経営資源を取り入れて、企業内部のものと組み合わせてイノベーションを生み出そうという試みであるので、「経営学の基礎講座」のM&A部分で説明した「市場（アウトソーシング）」「中間形態（業務・資本提携、ジョイントベンチャー）」、垂直統合部分で説明した「モジュール型アーキテクチャ」などが該当する。

◆ オープン・イノベーションのメリットは、「経営学の基礎講座」で説明した通り、垂直統合と比べるとスピードが早く、コストも低く抑えられることである。また、従来の組織が「知の深化」に偏りがちになるのを回避して、「知の探索」を促進することがある（→ライブラリー「両利きの経営を実現するには①：オープン・イノベーション」）。

◆ オープン・イノベーションにより、従来は組織内から調達していたものを、より低コストで効率的に導入可能ならば外部の資源を積極的に活用することになるため、自分の仕事がなくなる人からは反対される傾向がある。この抵抗に関しては、ライブラリー「変化＆変革への抵抗（個人編）（組織編）」をご覧いただきたい。

◆ オープン・イノベーションを成功させるためには、組織の吸収能力（Absorptive Capacity）が大切だと言われている。組織の吸収能力とは、企業が新たな外部情報の価値を認識し、商業的に応用する能力のことである。

◆ 自社のオープン・イノベーションの可能性はどうか？現在実施しているものの改善点や改革の方向は？実際、知の探索につながっているのか？効果があるのか？変革への抵抗への対抗策はどうあるべきか？自社の組織の吸収能力はどのレベルにあるのか？組織の吸収力を高めるにはどうするか？など、研究の幅の広い分野である。

＜参考＆推薦図書＞

- 安本雅典・真鍋誠司編（2017）『オープン化戦略：境界を超えるイノベーション』有斐閣
- 米倉誠一郎・清水洋編（2015）『オーペン・イノベーションのマネジメント：高い経営成果を生む仕組みづくり』有斐閣